特集 杉並 西荻窪ブロック

西荻窪ブロックとは、清水、桃井、善福寺、西荻北、西荻南、松庵、宮前の各町です。ここでは、西荻窪ブロックで活躍する人たち、催し物などを紹介します。

西荻窪駅は、当時の井荻村村長、内田秀五郎氏の誘致活動によって、1922（大正11）年に開業しました。杉並区が誕生した1932年には、それまで「井荻」と「上荻窪」であった駅周辺の旧井荻村地内の町名が「西荻窪」となり、1962年の住居表示に関する法律の施行により、「西荻」という地名が誕生しました。昔から、西荻窪の略称として「にしおぎ」の表現が使われてきたそうで、現在も同様の意味合いで使われることが多いかと思います。近年は、アンティークのまちとして知られるようになりました。

西荻窪名物「ハロー西荻」は進化する！

毎年5月第4週目の土日に行われ、今年で19回目を迎えた地域イベント「ハロー西荻」。西荻窪商店会連合会が中心となり、杉並区議会、自治会、PTAなどの協力のもと、毎年さまざまな催しを企画し、地元の皆に愛されるお祭りとして定着しています。今年のお祭りの様子など、同商店会連合会会長を務める清水汎さんに伺いました。

オレンジボードの社員から成る太鼓集団の華鼓（はなこ）

お客さんが能動的に参加でき、かつ南北にまたがる24の商店街が融和できるようなことをしたい、という思いから始まったのが、ハロー西荻の目玉とも言える「ウォーキング&スタンプラリー」。15カ所のチェックポイントを回ってスタンプを押し、すべて集めるとクジ引き（ハズレなし！）ができるというもので、イベントに参加しながら自然に西荻窪全体を回遊してもらえるのが特長です。さらに、クジの賞品に「各店指定の商品券」を入れ、イベント後も買い物に行きたくなるような工夫も。開催当初からいろいろな催しを試行錯誤してきた結果、この方法にたどり着いたと、清水さんは振り返ります。

スタンプで埋まった用紙を見せるラリー参加者

そのほか、約250ものブースが出店するフリーマーケットなど、楽しい企画がたくさん。駅前では、ジャズバンドや和太鼓の演奏に加え、区の清掃課によるゴミの分別指導や、保健所によるメタボリック診断など、区の広報活動の場としても有効利用されました。また、杉並区と災害時相互援助協定を結ぶ福島県南相馬市からは、同市の伝統行事として有名な「野馬追い」が招かれ、鎧をまとった騎馬武者が、地元の若者ら約200人で担がれる「万灯みこし」を先導する姿は、まさに圧巻でした。

来年は20回目となる節目の年。このほど、「西荻サインモニュメント」として区により設置されることが決まった、籔内佐斗司氏作の「童子像」6体と、商店会で寄付、管理する「西荻地蔵」6体が西荻窪の各所に配置されることになり、現在、これに関連したスタンプラリーなどを計画中とのこと。どの商店もハロー西荻の活動には大変協力的だそうで、まち全体でハロー西荻の更なる“進化”を目指します。

「駅前にチェーン店が目立つまちが増えましたが、どこも同じに見えてしまう。その点で西荻窪は“まちの顔”を保てているのでは」と清水さん。古き良きまちの雰囲気を守り続けることで、西荻窪は今後も魅力を増していくのではないでしょうか。

西荻窪アンティークマップ

西荻窪といえばアンティークというイメージがすっかり定着した昨今。地域にある約60のアンティーク店の場所を網羅した「西荻窪アンティークマップ」を片手に歩けば、初めての人も気軽に骨董店巡りが楽しめると好評です。

現在16版目を製作中のこのマップ。この地で最も古くから古道具店「伊勢屋美術」を営み、約25年前の初版時から製作に携わった猪鼻徳壽さんにお話を伺うと、当時、骨董店はわずか9軒だったとか。10年ほど前からマスコミが取り上げたことで骨董のまちと認識されるようになり、徐々に新しいお店が増えていったのだそうです。

アンティークマップにも載っている「木土藍楽」（きどあいらく）の店内

マップは西荻窪駅、西荻窪交番、掲載各店で入手可能。ぜひご利用ください。

地歴散策 ～井荻村の名村長～

◆杉並区の道路地図を見ると、区北西部の広い範囲にわたって碁盤の目状に道路が整備されていることに気が付きます。これは今から80年ほど前に行われた、当時全国最大規模を誇った土地区画整理事業の名残です。整理が施された一帯（現在の井草地区全域、西荻窪地区・荻窪地区の大部分）は、当時井荻村（後に町）と呼ばれていました。事業の実現に尽力したのが、時の村長内田秀五郎（1876～1975）です。

◆地元の有力農家に生まれた秀五郎は、わずか30歳で全国最年少の村長に推挙され、町営水道整備、電灯敷設、西荻窪駅の開設、井荻信用購買販売組合（現・西武信金）の設立等、様々な都市発展政策を打ち出しました。震災後のベッドタウン需要を背景とした村内全域に渡る区画整理事業はその最たるもので、1925年に土地区画整理組合を結成、翌年着工し、わずか10年後の35年に全8工区の換地処分が完了しています。中には根強い反対意見もありましたが、秀五郎の強力なリーダーシップによって解決が図られました。現在の杉並区の町並みの4分の1は、この時に完成したと言えます。

木立ちの中に佇む内田秀五郎像

◆井荻町長、都会議員、都会議長等を歴任し、杉並を舞台に長きにわたって活躍した名村長の往年の姿を、善福寺公園の上池のほとりに設置された彼の銅像から偲ぶことができます。

NEXT

杉並支部レター第7号は来年3月発行予定。特集は京王・井の頭線ブロックとなります。お楽しみに！

杉並区の笑顔

杉並区の好きなところを伺いました。

東京航空専門学校
校長
渋谷通江 氏

専門学校の校長を務める渋谷さん。学生には、厳しく指導する一方で共に料理を作って食べることもあるそう。若さゆえに、学生が羽目を外したり、突飛な行動を取ったりすると、その都度、渋谷さんは商店街や駅に出向き、謝って回ったとか。ただ、こうした経験を通じて、地域とより密接に関わるようになったと振り返ります。昔ながらの店が多く残る商店街は、お年寄りにとって利用しやすく、安心できる存在。片や、20代の娘さんも地元の古着屋などによく行き「やっぱり西荻が一番！」と言うのだそう。「古さと新しさがうまく融合しているまちですよね」と、西荻への愛着が伝わる温和な語り口と笑顔で話してくださいました。

江島不動産株式会社
代表取締役
千代延博 氏

「学生時代に一人暮らしをした若者が、結婚した後、またここに住みたいと部屋を探しに来てくれますよ」と、不動産業の視点で西荻の良さを語ってくださった千代延さん。家賃も安めで緑も多く、区画整理の行き届いたまち並みが魅力と分析します。ニュース映画の記者、大手ハウスメーカーの広報を経て、現職に就かれたのは33年前。記者時代はこの業界にあまりいい印象がなかったそうですが、以後、不動産業の地位向上に尽力され、業界団体の重要な役職を歴任。座右の銘は「一期一会」、今の自分があるのは周りの人々のおかげと謙虚にほほ笑まれる姿に頭が下がりました。

杉並支部の事業より

◆6月19日（木）
渋沢史料館・国立印刷局滝野川工場・十条銀座商店街視察会（商業・金融分科会）

◆7月11日（金）
東京電力柏崎刈羽原子力発電所視察会（工業分科会）

◆7月17日（木）
特別講演会「企業・商店を守る平常時の危機管理」
講師　危機管理・広報アドバイザー　伊原正俊氏

◆7月17日（木）
会員交流会　東商本部より本庄副会頭も駆けつけ、会員企業同士が交流を深めた。併せて会員増強功労者の表彰を行う。

東京商工会議所入会のご案内

～会員として東京商工会議所にご加入いただくと、様々なメリットがございます！～

■資金のご案内

★経営改善資金（マル経融資）…マル経融資（小企業等経営改善資金）は小規模事業者の方々の経営をバックアップするために無担保・無保証人で商工会議所の推薦にもとづき融資される国（国民生活金融公庫）の融資制度です。

★東京商工会議所メンバーズビジネスローン…東京商工会議所と協力金融機関（銀行・信用金庫・信用組合）の提携により、通常より優遇された条件で融資が受けられる東商会員ならではのメリットです。

■経営のご相談

専門家が無料でご相談にお応えします。

★法律相談・税務相談…経営上、お困りの方はお気軽にご相談ください。弁護士・税理士がお答えいたします。

★エキスパートバンク…小規模事業者の皆さまからのご要望に応じて、東京商工会議所に登録されたエキスパート（専門家）を直接事業所に派遣し、具体的・実践的なアドバイスによって問題の解決に役立てていただくものです。

政策提言・要望活動　産業環境の改善と活力のある経済社会の実現に向けて会員企業の皆さまの声を政治・行政に反映させます。

地域振興活動　産業振興・地域活性化に向けて会員企業の皆さまと地域社会の取り組みを推進します。

経営支援活動　経営の改善と新たな成長に向けて取り組む企業の挑戦を力強くバックアップします。

杉並支部 今後の事業予定

金融相談会
2008年10月14日（火）・23日（木）
10：00～16：00
杉並区立産業商工会館（阿佐谷南 3-2-19）
要事前申込

東商創立 130 周年記念事業
2008年11月4日（火）
16：00～19：30
杉並公会堂小ホール・グランサロン
（上荻 1-23-15）
第1部
・基調講演
「地域の防犯機能の回復を目指して」（仮）
講師：立正大学文学部教授　小宮信夫氏
・事例発表
「地域安全マップ」作りに参加して
・パネルディスカッション
第2部　交流会
要事前申込

お問い合わせ：東京商工会議所杉並支部　03-3220-1211